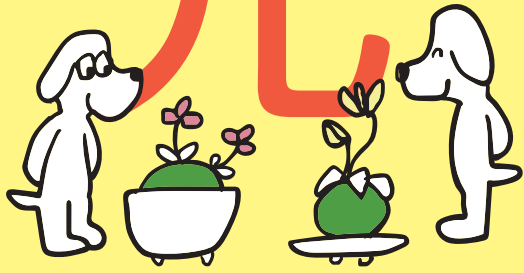
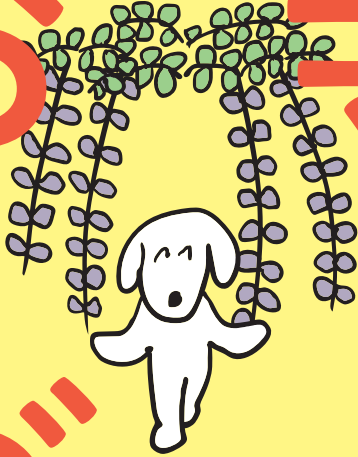


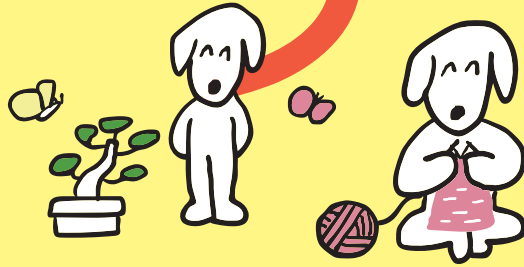
元 氣 な



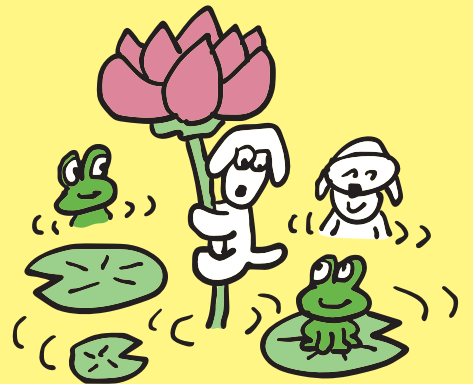
お 寺



づ く り



講 座



真宗大谷派 企画調整局

寺院活性化支援室

お寺が元気になるって どういうことでしょうか？



寺院活性化支援室として全国津々浦々、さまざまな地域を訪れました。その中で、お寺を支えてこられた方々の声をお聞きました。

「若さんと一緒にお寺の将来を語りました。はじめは乗り気じゃなかったのに、若さんの姿勢が変わってきました」

「同朋の会で月に1度、お朝事会を始めました。動き出した活動は、他のお寺でも行われている小さなことかもしれませんが、それが私たちにとっての“一歩”になっています」

そんな声にふれるとき、お寺が元気になるって、こういうことなのかな？と感じます。

困っていることは何ですか？

お寺でやりたいことがあっても、なかなか形にするのは難しいことです。
みなさんはどんなことに困っていますか？ 話し合いの場をもつことで、糸口が見えてきます。

門徒さんとお寺の行事・今後を見直したい。

でも、どうやって…？

人がいない。近所のお寺と一緒に考えたい。

どうしたらいいのかな…？

子どもとふれ合う場をつくりたい。大事にしたい。

でも、どうやって…？

寺院活性化支援室にご相談ください！

Jへ

支援員があなたのお寺と地域のコンシェルジュとして伺います。

Kへ

Sへ

あなたにとってお寺とは？ 一緒に語ってませんか？

日々の活動はお寺によってさまざまです。それを見直すにしても、新しくするにしても、「なかなかそのきっかけが見つけれません」という声を聞きました。支援員はそのきっかけづくりに加わりたいと思っています。
お寺に住むものと門徒が集まって、少しずつ話し合い、無理のない一歩を踏み出せるように。

J

小谷 圭
仁



元気なお寺づくり講座
一緒にお寺の将来を
描いてみませんか？

全国的な人口減少・流動、世帯の分散、価値観の多様化。わたしたちの生活は変わり続け、お寺でも「今まで通りではいけない」という空気を感じます。大切な教えはどう表現すれば伝えていくことができるのか。僧侶と門徒が、本音で語り合う全5回の「元気なお寺づくり講座」では、これまでのお寺の状況をじっくり確かめ、将来に向けての「寺業計画書®」を一緒に作成します。

次ページから
詳しく紹介します！



K

永井 圭
道文



過疎・過密地域寺院支援
お寺に寄り添う
講師を派遣します。

そのお寺、その地域だからこそ育まれている大切なことがあります。だからこそ、支援員はその場に足を運び、大切なことを発見していきたい。すぐに答えを求めず、聞き役としてみなさんと一緒に考える伴走者をめざします。

お寺の現在と未来を支援員とお話しし、新たな教化事業のテーマにあう講師を派遣することで、その土地でつながっていく教化活動のきっかけをつくります。

S

松田 圭
亜世



青少年教化支援
みんな違う、それがいい。
ひと工夫してみることから。

「教えを次世代に伝えたいけれど、“子ども会”や“青年会”をはじめるのは難しい」。よく、そんな声が聞こえてきます。

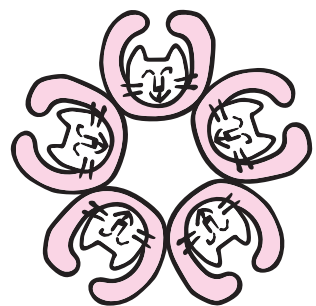
もっと自由な発想で、お寺の状況にあわせた形があってもいい。今の取り組みにひと工夫するだけで可能性が大きく広がることもあります。

お寺の状況や悩みをみなさんにお聞きしながら、「教えを伝えたい」という思いを形にするお手伝いをしていきます。

寺院活性化支援のロゴマーク&キャッチコピーが決定！

寺院活性化をイメージするロゴマークとキャッチコピーを公募。寄せられた全42作品の中から、2018年11月、真宗本廟御正忌報恩講の期間に最終選考会を行い、採用作品が決定しました！





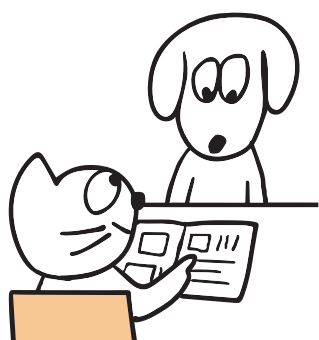
元気なお寺づくり講座は 5つのステップで開催します。

支援員による講義と参加者のみなさんが語り合う
ワークショップをセットにした全5回の講座です。
僧侶も門徒も、それぞれの思い・アイデア・気づ
きを大切に、お寺の将来への羅針盤となる寺業計
画書®を作成します！

／ 参加にあたって ／
僧侶1名+門徒1～2名のチームを作る。
※僧侶のみ、門徒のみはご参加いただけません。
●開講にあたり、費用は必要ありません。
●1回3時間、全5回参加できるよう
日程を調整してください。



はじめる
前に



教区や組、寺院へ
支援員が伺います。

1 | 事前の打合せ

講座及び説明会のスケジュールや開催規模などの相談・打合せを行います。

2 | 説明会

講座の目的・概要を説明します。その後に参加申し込みを開始します。※僧侶と門徒とのチームでの参加となります。

3 | 申込確定

申し込みの確定後、講座の案内をお送りします。



STEP

1



お寺を取り巻く環境の
変化を見てみよう！

社会全体は急速に変化し続けています。社会とお寺のまわりを見渡して、これから訪れる変化と、その変化がお寺の将来に与える影響をさまざまな角度から考えます。



寺院活性化支援室の支援員が講師を担います。

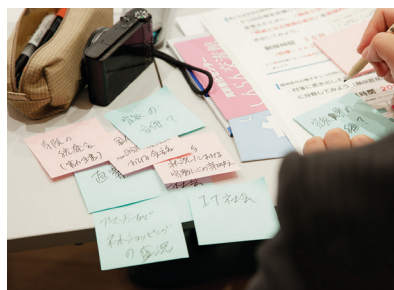
STEP

2



お寺の強みと
使命を考えよう！

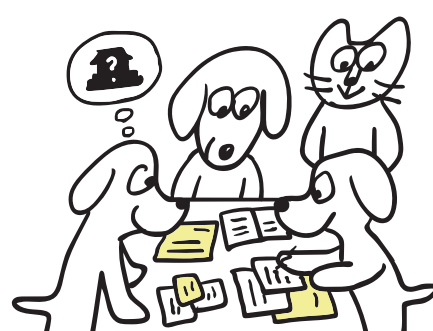
お寺のもつ潜在的な強みを考えます。注目するのは、お寺を支える人はどんな個性をもち、相互にどのような関係性がはたっているかということ。また、社会におけるお寺の使命を改めて考えます。



付箋を使って幅広い視点からお寺の強みと使命を掘り起こします。

STEP

3



お寺の将来像を
描こう！

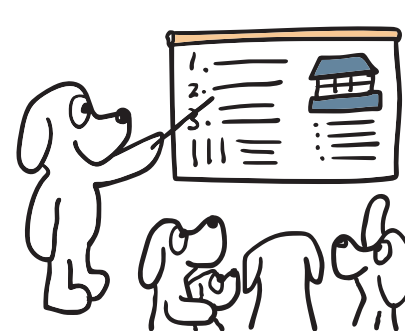
元気なお寺の将来像を描き、お寺の目指す方向性を明確にします。お寺に関わるすべての人が共感・協力できるよう、「伝えたいことが伝わる」表現を磨きます。また、アイデアを出し合い、将来像を実現するためのヒントを探します。



模造紙やワークシートを使ってアイデアを共有します。

STEP

4



伝えたい相手をイメージ
した企画を立てよう！

誰に、何を、どのように伝えるのかを整理し、受け取る相手の視点を大切に企画づくりに挑戦します。また、企画を具体化することで実現のイメージを共有します。



お互いの視点やアイデアを語り合い、形にします。

STEP

5



寺業計画書®を
みんなに発表しよう！

STEP1～4を経て作成したお寺の事業計画書である「寺業計画書®」を持ち寄り、1カ寺ごとに発表します。質問や意見交換も行い、お互いの計画を確かめ、磨き合う場にします。いよいよ実施に向けて、お寺の「一歩」が始まります。



立てた計画を発表し、いよいよ歩みが始まります。

お寺の未来を創造する新たなご縁の広がり

こんな活動が はじまっています。



長浜教区 浄教寺



寺業計画書®の内容とその後の歩みは、「門徒と僧侶で創る元気なお寺づくりアワード2018」を受賞！



僧侶と門徒が、お寺の役割からその使命を発見し、一緒に描いたお寺の将来像。それを実現するための計画を作ることでお寺の中の関係に変化が生まれます。受講者の声と、受講後に計画を実践したお寺を紹介します。

お寺の使命

みんなが集う・本堂に座ればホッとできる

お寺の将来像

3年後の報恩講は本堂が満堂に

2016年度の受講後に計画を実施し、効果を感じているそうです。目標達成に向けて僧侶と門徒が熱く取り組んでいます。

目標は、3年後の報恩講の参拝者を160名以上に！

計画名：報恩講の参拝者を現状の倍にする3カ年計画

2016年度の受講から2年。3日間で80名前後になっていた報恩講の参拝者を3年で160名以上にすることを目標に、本堂を満堂にする寺業計画を立てました。

計画1の実践は、『御伝鈔』拝読にあわせ、御絵伝の映像と解説文をプロジェクターで上映。お参りされた門徒さんにも他の寺院からも「よく理解できる」と好評です。

計画2の実践は、定例の同朋の会の内容を見直したことで、同朋の会での1年を通しての学びが年に1度の報恩講に結びつくように、①報恩講でみんなで唱和できるようにお勤めを練習、②七高僧や浄土真宗の歴史を学ぶという内容に変更されま

した。とくに手ごたえがあったのは、正信偈「真四句目下」の練習です。報恩講では練習の参加者が堂内をリードし、前年より自信のある声でのお勤めになりました。

計画3の実践は、「地域と浄土真宗」を視点に、長浜さいかち浜など知らなかった地元の歴史の一面を学びました。この企画から、浄教寺とも縁がある教如上人の足跡をたどる研修旅行が実施されました。

取り組みが功を奏し、2年目の報恩講は、前年比1.6倍の参加者数に。いよいよ計画の最終年を迎え、目標に向けて、新たな企画を考えています。



ワークショップの様子

自分たちのお寺をどうする？ と話すのも同朋の会

浄教寺総代 山岡達弘さん

「この歳になって勉強か…」と渋々の参加でしたが、お寺の強みを確かめ、世代をつなぐために「聞く・見る・話す」が詰まった同朋の会の大切さを実感するようになりました。法話を聞き、お勤めの練習をし、自分たちのお寺について話す。それを積極的にお知らせしていくことで、報恩講での様子に変化が出てきました。次へのステップを生み出す元気になっています。

YAMOKA Tatsuhiko



久留米教区 多福寺

お寺の使命

人生の同伴者・地域の交流の場

2017年度の受講の後、寺業計画書®の中の2つを実施されています。

多福寺仏教文化講演会

計画名：仏教いきいき生活講座

人が抱える問題が、そのまま自分の人生の問題として教えに結びつくような縁をつくりたいと思い、2018年10月、「終活とは何か～老いを味わう」をテーマに実施しました。不安を解消するための対処・手続きではなく、仏教を視点に「老・病・

死」とどう向き合うのかという「心の終活」を意識しました。新聞で周知し、参加者の半数は門徒さん以外の一般の方。「終活」をはじめ、社会で関心の高い問題を通して、真宗門徒としての在り方を見直す機会をつくっていきます。



1. ALMONDEの入口。染めた暖簾もお手製。
2. カフェスペース。お寺の帰りに立ち寄る方も。
3. こだわりの音響でゆったりした空間に。
4. ワークショップでつくったものも並ぶ。
5. 取り壊した建物の木材や持ち寄られた家具はどこか懐かしい雰囲気。

お寺の隣カフェ&ギャラリー ALMONDE 毎週 金・土・日に営業！

計画名：お寺は面白いサードプレイス

門徒さんに寄贈された隣接の家を、住職のお兄さんの趣味であるDIY※を活かしてコツコツと改装。おいしいコーヒーが飲めて門徒さんも地域の人も集える場に変身しました。

店内は天井も床も壁も家具もキッチンもすべてDIYに加えて、いろいろな方からいただいた機材や欄間、床の間板を再利用。コンセプトは、そこにあるもん(在るもの)で造る大人の秘密基地。その名も「ALMONDE

(あるもんで)」。手づくりのオーディオから流れるレコードの懐かしい響き。オリジナルブレンドの豆をネルドリップで丁寧にいれたコーヒー、オリジナルのスイーツ。店主お気に入りの雑貨等も販売し、クラフトのワークショップや麵打ち教室なども頻繁に開かれ、人気の交流の場になっています。

※DIY(ディー・アイ・ワイ)…Do It Yourselfの略。専門家ではない素人が、自分で何かを作ったり修繕したりすること。



多福寺の活動&ALMONDEの詳細はこちら→ <https://bbbspq851.p-kit.com/>

今後はこうしたい！

住職 竹井 徹さん

講座では、同じ教区内の寺院が参加し、それぞれに違う取り組みをしていることに気づき、感心したり、取り入れたいと思うことがありました。希望や生きがい生まれる場になれば、「元気なお寺」になると思います。お寺の役員さん、門徒さん、地域の人を螺旋を描くように巻き込んで、「子ども食堂」も開いていきたいですね。

TAKAI Toru





お気軽にご相談ください

真宗大谷派 企画調整局
寺院活性化支援室

〒600-8164

京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地

しんらん交流館内

☎075-371-9208

E-mail : kikaku@higashihonganji.or.jp

しんらん交流館ホームページ <http://jodo-shinshu.info/>

